



一般質問..... P 2  
3月定例会から

町議会審議結果..... P 6  
上川町出産祝金支給条例の一部改正  
平成23年度上川町一般会計予算  
旭ヶ丘地区活性化計画に関する調査  
特別委員会の設置及び委員の選任  
ほか

予算審議..... P 8

行政報告..... P 9

委員会の動き..... P 10

意見書の提出..... P 11

アンケート結果報告... P 12

発行/上川町議会 編集/議会広報特別委員会



「傍聴者が見守る中での第2回町議会（定例1）」

# 一般質問

平成23年第2回町議会（定例1）の一般質問は、3月15日に行われ、5議員が町長等の考え方を問いました。

被災地へ哀悼とお見舞いの言葉

3月15日日本会議開会前に、このたびの東日本大震災で多くの犠牲者がでていることに対し、藤井議長の発声により全員で黙祷を捧げた後、佐藤町長が今回の災害にあたり哀悼の意とお見舞いの言葉を表明するとともに、町としての対応について消防の方へ待機要請があり、今後派遣をしていくことや避難生活者に消防本部から備蓄毛布を抛出する指示を出したこと、さらに町民の方々からの義援金を得られるよう募金箱を数箇所に設置したことなどを報告しました。

新たな子育て支援策について

中里 議員



(中里保子議員)

先日国勢調査の結果が発表され、上川町も人口の減少と少子高齢化が、ますます進んでいます。

これまで町や人々を育ててくれた高齢者を温かく、ささえ合うことは勿論ですが、少ない子供達とその家族を地域社会全体でさ

え、この町にずっと住み続けたいと思う、子育て支援の施策が必要です。時の流れとともに町民の要望も変わりつつあり、国の体制も変化しています。例えば以前は国の管轄が異なることで、幼稚園と保育所が一元化することは考えられませんでした。したが、地域の多様なニーズに応え、それぞれの良所を生かす制度として「認定こども園」が平成18年10月にスタートし、全国各地で幼保連携型で運営されていきます。

また、子育て世代の意見をとり入れた設計による、子育て支援住宅の建設で、住環境が整備されたり、子供の数で家賃の補助をする

配慮がされている自治体があります。また、チャイルドプレミアムパスポート事業を実施し、子供のいる世帯にパスポートを発行し、町内の協力店舗で割引や特典を受けられ、商店街が子育て世代を応援する自治体もあります。

上川町も近郊の町にはない特色ある子育て世代を応援する施策を実施することにより、人口減少の歯止めになり、若い世代が明るく暮らしていくことを望みますので、町長の子育て世代を支援する施策について考え方を伺います。

町長答弁

今後も子育て支援の施策について検討する

厚生労働省が発表した平成21年人口動態統計により、出生数から死亡数を差し引いた人口の自然増減数は7万1830人減少

し、3年連続の減少となり少子化が急速に進んでおります。当町においても、昨年度末の未就学児童の人口は194人で人口比率は4.48%となっており、人口に比例して児童人口が年々減少しております。また、昨年10月時点での65歳以上人口の高齢化率は37.0%と全道179市町村中21番目に高い高齢化率となっており、今後この割合はさらに高くなるものと予想しているところであり

この状況が続きますと、働き手の減少による社会活力の低下や消費の低下などによる町内経済に与える影響も深刻なものになると考えております。この対策の一つとして、

当町においては昨年3月に「上川町次世代育成支援対策推進行動計画」を策定し、取り組んでいるところであり、主な子育て支援対策事業としては、妊婦一般健康

診査について、診査14回と超音波検査6回に拡充するとともに、平成10年度から開所しております、子育て支援センターについて、今年度において福祉会館和室を全面改修し、保護者のみなさんの要望に応え、開所場所を固定することといたしました。

南町公園についても、子どもたちが安心して遊ぶことができるよう、3カ年計画で整備を進めてまいります。

また、平成21年4月には、上川医療センターに町民のみなさんから要望の強かった小児科を開設し、子どもたちの健やかな成長のための環境を整備し、今年度から、子育てをしていく



(南町公園で遊ぶ親子)

過程での健康に対する支援策として、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの助成などを開始いたしました。

学童保育センターにつきまして、本年度上川小学校を全面改修し、環境整備を行ったところでございます。これらは子育てに対する負担の軽減の一助となっているものと考えております。

住宅政策の中におきましても民間に建てていただいでそれは安くやれるわけですから、それに対して町が補助をするとかあるいは買上げるとかここは我が町でも数年前からそういう形も一部取り入れながらやっ

てもきてます。また、今後も町民のみなさんが安心してお子さんを産み育てることができるよう、子育て支援の施策について、検討してまいります。と存じますので、ご理解をいただきたいと思います。

地デジ化による不法投棄の増加が懸念されますが

安部 議員



(安部逸雄議員)

98年に制定され、施行されたのが2001年度からでした。廃家電4品目を小

売業者が引き取る事。消費者は、収集運搬・リサイクル各料金を支払う事が大きな中身であります。施行後家電の不法投棄が増えていく事が度々報道されています。ゴミはゴミを呼ぶと言われまます。町内にも投棄されたままのものが何ヶ所か見かけられます。今年、地デジ化が7月に迫り、

エコポイントによる消費の拡大にもつながりリサイクル率も上昇し、更に不法投

棄が増加する恐れも伺えます。以下対策について伺います。

1. やむを得ず町側で処理した廃家電の量はどのくらいであるのか。
2. 回収、リサイクル料金の設定は国と自治体で別扱いとするとどの様な影響があるか。
3. 予防策はどの様に取られてきたのか。

町長答弁

町内会の協力も得て、不法投棄の予防に努める

地上アナログ放送が7月24日で終了することに伴い、対応する家電への取替などによる不法投棄の増加が懸念されるところでございます。以下、質問に、お

答え申し上げます。

1点目のご質問でございますが、家電リサイクル法に基づき対象4品目で町が処理した不法投棄の廃家電

は、平成18年から平成22年度まで5年間で61件リサイクルに要した費用は、19万8835円でございます。廃家電の内訳といたしましては、テレビが49台、洗濯機が3台、冷蔵庫が9台となっております。

2点目のご質問でございますが、家電リサイクル法の対象機器の引き取りは、自ら販売したもの、買換えの際引き取りを求められたものは、小売業者の引取義務となっており、上川町でも町内の家電販売店が引取りを行っており、また、他店で購入した対象機器についても引取りの協力を頂いているところであり、このことから、現状では、不法投棄に係る対象機器でありますので、回収及びリサイクル料金の設定は予定をしております。

3点目のご質問でありましたが、不法投棄の予防策として、広報誌やリサイクル通信を利用し周知を図るとともに、看板を

設置し啓発に努めてまいりたいと考えております。不法投棄（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）は、犯罪でもありますので、旭川東警察署とも連携をし、巡回パトロールを強化してまいります。いずれにいたしましても、人の目があることが一番の予防策と考えますので、町内会の協力も頂きながら、不法投棄の予防に努めてまいりたいと考えております。

度分の具体的な事業内容について伺います。前年度分と今年度分合わせた予算規模と、それによって出来る上る建物や周辺整備等を提示してください。

### 町長答弁

2カ年の予算規模は3億4336万3千円  
平成23年度旭ヶ丘地区活性化事業総予算額については2億620万8千円で、平成22年度予算1億3715万5千円と合わせて3億4336万3千円となるものであります。

アップのための受変電設備工事、配電通信工事、馬を使った体験メニューの基盤整備としての馬観賞用柵設置工事、レストランにかける厨房機器・テーブル・椅子のほかコテージのベッド・ソファなどの備品購入を予定いたしております。

また、フォレストガーデン整備事業で測量及び実施設計と基盤整備として笹の除去と進入路の整備を図る予定であります。

### 町長答弁

作品数では北海道最大規模を計画

全体計画は、山岳写真家市根井孝悦氏の所有する大雪山を中心とした写真を展示し、層雲峡温泉の観光施設といたすものであります。

「層雲峡・大雪山写真ミュージアム」について

### 久米議員

昨年閉校となった層雲峡小学校の校舎を利用してこのミュージアムを開館し、大雪山・層雲峡観光の魅力アップを計ることですが、町民の方への周知も含めてその全体計画と運営方法について簡潔に説明して

上川高等学校通学費補助金について

### 笠間議員

既存の校舎をできるだけ活用し、大小合わせて150点程度の作品を展示予定です、作品数では北海道最大規模のミュージアムを計画しております。

運営方法は、町の施設として所管課が管理し、その経費は予算計上し対応してまいります。また、市根井氏には、館長としてお願いしミュージアムの運営管理に携わっていただくよう考えております。なお、今後の運営等については内部委員会を設立し、町民にも理解が得られるよう検討して

現在の我が町上川町は今もなお静かに人口の減少、

旭ヶ丘地区活性化計画について

### 久米議員



(久米得正議員)

雪解けと共に事業着手される本計画について、今年

過疎化、少子化が進み小中学校の児童生徒数も減少し高校への入学生徒数も少なく高校の存続も懸念されています。

先日23年度の教育行政執行方針が示されましたが、今後通学費の助成をどの様に考えて行かれるのか、今後の上川高校存続並びに生徒数の増加に向けて何か考えがあるのか教育長の考えを伺いたい。

### 教育長答弁

今後においても現行要綱に基づき支給したい  
地元高校の存続は、町の教育の推進、商工振興及び地域活性化には欠かすことのできないものであることから、平成元年に「上川高等学校通学費等補助金交付要綱」を策定し、間口対策と保護者の負担軽減を目的に、さらに平成14年度からは「連携型中高一貫教育」を導入して、魅力ある学校づくりを行い、生徒の確保を図ってきたところでございます。

北海道教育委員会が示す「新たな高校教育に関する



(昨年の上高仮装行列)

指針」により、上川高校が指定されております連携型中高一貫教育校において、第1学年全体の在籍数が40人以下となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合には、再編も含め今後の在り方が検討されることとなっております。

これまで上川高校は生徒数の増減はあったものの、第1学年2間口を何とか確保しているところでございます。しかしながら、本年度から始まった、高校授業料無償化等の影響も受けてか、昨年度、新入学生は70名でしたが、平成23年度入学出願者は今現在で43名であります。

通学費補助金は上川高校に通学する生徒の保護者等に対し、定期路線バス若し

くは鉄道を利用する生徒、または片道4キロメートル以上の距離から自転車等により通学する生徒、さらに町内に下宿する生徒を補助対象としており、バス、鉄道利用者には乗車運賃実費額、自転車等の利用者には1キロメートル当たり37円、下宿については支払額の1/2で3万円を上限に補助しているところであります。

通学費に係る自転車等による通学者への支給については、早朝のため上川行きがない、また町内旭ヶ丘地区のように公共交通機関がないなど、自転車等による通学者への支給は必要と考えており、今後においても引き続き現行要綱に基づき支給したいと考えております。

また、中高一貫教育の推進につきましても、中高の連携の柱として、中学生と高校生が合同で行う「地域環境学習」、「地域産業体

上川町の防災体制について

### 菅家議員



(菅家幸雄議員)

最近のテレビ新聞のニュースでは、地震・火山の噴火等目を覆いたくなる悲惨なものが日常報じられ

て居りますが、我町における災害の起きた場合の町民への周知体制は、町の広報車によりなされるとされて居りますが、道路がどのような災害の時でも通行可能な状態であればと思いますが、少子高齢化の進む我町においても防災行政の活用により町民の安全を守ろうとしている近隣の愛別町、当麻町、東川町の様に、光ケーブル網などを活用した情報通信基盤の新設に付いての町長のお考えをお伺い致します。

### 町長答弁

国の補助制度の動向を注視し研究を深めたい

万が一の災害時における住民への的確な周知体制と安全な場所への避難行動につきましても、極めて重要なことであると認識をしております。近隣では東川町が天人峡地区におけるインターネット



(防災訓練の様子)

トの高速通信化を図り、当麻町、愛別町では光ケーブル網の整備を行い、インターネットの高速通信化、地デジ難視聴区域の解消のほか緊急時における情報通信基盤の整備を行っているものであります。費用が十数億にのぼると聞いています。

光ケーブル網を利用した一斉通信による、住民への情報伝達と、いち早い避難行動をとることは安全を確保するうえでの第一条件と考えておりますが、一方で高率な補助制度と有利な起債措置が必要であり、国の

補助制度の動向を注視し、今後、研究を深めていきたいと考えておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

西町西4丁目線道路の簡易舗装改良の件について

### 菅家 議員

この地区に水道本管敷設後、簡易舗装にして戴いた道路であります。私の記憶では20年程以前と思われませんが、舗装の路面が沈下現象を起こし舗装も何ヶ所にも細かく亀裂が入り大変ひどい状況でありますので、改良工事に対し地区住民の住環境整備に對しての町長の考えを伺います。

### 町長答弁

雪解け後に現地確認し対応したい

西4丁目線の北3条線か

ら山側へ向かう区間につきましては、簡易舗装を施工した路線ですが、年数が経過しておりますことから、ご指摘の通り一部ひび割れ等不具合が生じておりますので、雪解け後に現地確認し対応したいと考えておりますのでご理解願います。

## 町議会

### 審議結果

### 1月臨時会

平成23年第1回上川町議会(臨時1)は、1月21日に開会され一般会計補正予算(第7号)と町立診療所事業特別会計補正予算(第5号)の2件が審議され同日閉会しました。主な内容は次のとおりです。

### 3月定例会

平成23年第2回上川町議会(定例1)は、3月3日から会期を15日間と決め、平成22年度各会計補正予算や条例の一部改正、指定管理者の指定、平成23年度各会計予算など38議案が審議され、会期前の16日に閉会となりました。主な内容は次のとおりです。

### 可決議案等

一般会計補正予算(第7号)は、国の地域活性化交付金対象の19事業に伴う歳入及び地方債の補正と診療所事業会計への繰出町立診療所事業特別会計補正予算(第5号)は、地域活性化交付金対象の3事業に伴う歳出補正と歳入において一般会計繰入金を増額補正 全員賛成で可決

いては、道道東2丁目通街路整備事業の実施に伴い、南6条支線の認定(川端町105番)

上川町手数料条例の一部を改正する条例については、平成21年4月1日から平成23年3月31日までの間に限り、満65歳以上の方で国または地方公共団体の機関が発行した写真付きの身分証明書等を所持していない方の住基カード交付手数料を無料として参りました。が、引き続き期間を定めず本事業を継続するとともに、手数料条例の一部を改正するもの

上川町出産祝金支給条例

## まちの議会を傍聴してみませんか

次の定例会は6月下旬開催の予定です。

問い合わせ先  
議会事務局 2-1211(内線301)

の一部を改正する条例については、出産祝金を出産時、小学校入学時、中学校入学時にそれぞれ10万円づつ支給していたものを、出産時のみに10万円を支給し、小学校・中学校入学時の支給は廃止とするもの

上川都市計画事業上川駅周辺地区土地画整理事業施行条例の一部を改正する条例については、分割徴収金額納付に伴う緩和措置の追加、延滞金の減免条項の追加、その他文言の整理をするもの

大雪山バーデハウス、層雲峡観光総合コミュニティセンターに係る指定管理者の指定については、契約期間満了による新たな指定期間を2年間とするもの

流星・銀河の滝休憩舎に係る指定管理者の指定については、契約期間満了による新たな指定期間を3年間とするもの

一般会計補正予算(第8号)は、事業確定などに伴う整理予算と介護老人保健

施設事業・公共下水道事業特別会計の収支不足を補うための繰出金の増、診療所特別会計繰り出し金の減、町税の決算見込みを勘案した補正減などのほか、繰越明許費において、地域活性化交付金対象事業などで、年度内に完了できる見込みがないための補正。地方債において、各事業の確定及び交付金等特定財源の増減に伴い変更補正を行うもの

国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)は、歳出において事業執行残及び事業確定に伴う予算整理と診療所特別会計に対する繰り出し金の増、歳入において税収の減と国・道等の負担金・交付金の確定による補正及び準備基金繰入金などの補正

後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)は、後期高齢者医療保険料の減額補正

介護保険事業特別会計補正予算(第4号)は、サービス利用者の増減による補

正並びに事業執行残及び事業確定に伴う予算整理などの補正

町立診療所事業特別会計補正予算(第6号)は、決算見込みを勘案した予算整理と一般会計繰入金金の減及び国保会計繰入金金の増などの補正

町立介護老人保健施設事業特別会計補正予算(第4号)は、入所者数の減などによる決算見込みを勘案した予算整理と一般会計繰入金金の増などの補正

土地画整理事業特別会計補正予算(第3号)は、公共下水道事業特別会計に伴う補正

一般会計繰入金金の増額補正

固定資産評価審査委員会委員の選任は、藤本博氏、新田哲裕氏がそれぞれ3年

の任期が満了となることから、両氏を引き続き委員に選任するため議会の同意を求めたもの

以上、全員賛成

平成23年度一般会計予算 挙手多数

平成23年度7特別会計予算並びに、平成23年度水道事業会計予算

監査委員の選任は、伊藤義美氏が4年の任期が満了となることから引き続き委員に選任するため議会の同意を求めたもの

以上、全員賛成

旭ヶ丘地区活性化計画に関する調査特別委員会の設置及び委員の選任は、議長を除く10人の議員全員で構成する調査特別委員会を設置し、旭ヶ丘地区活性化計画に関する調査について付託して、議会が閉会中も調査を行うことができるものとし、議会が本件の調査終了を議決するまで、継続して調査を行うもので、委員長は川上隆士議員、副委員長は笠間法考議員に決定

# 予算審議（総括）

《本定例会予算審議で活発に質疑応答がなされた中の総括質問の一部を紹介します。》

答弁は、表示されているもの以外は町長です。

質 問	答 弁
東北関東の大震災によって、国の関係予算流動的と思われる。執行に当たって十分留意必要でないか。	国の方の予算が4月以降、各分野に渡っての大きな変動、変化も見込まれる。国、道との動きもつぶさに見極めながらそれに答える弾力的な運用、執行あるいは運営段階においては更なる節減も含めたことをもう一度きちっととらえながらそれぞれの執行に当たって参りたい。
各種団体等に対する補助金等について少額あるいは継続的補助が見受けられるが、今後の対応について	改めて各団体の意向等を確認し、事業内容も精査をし今年の予算策定同様にメリハリのきいたやり方に切り替えて今後の団体補助等については対応していきたい。
高梨沙羅ちゃんが一生懸命頑張って上川町にとって大変明るい話題。上川のジャンプ台をもう一度整備見直しをしたらいかがなものか。	高梨さんの大きな功績を町全体で讃えていきたい。子供達が随分、頑張ってる訳ですしこの町に誇りを感じてジャンプを引き続き盛り上げていく意味からも小さなジャンプ台の2つについて、関係者の方とも協議を行い、雪解けを待って現地を確かめて一定の整備をする方向で検討したい。
今回の地震による原発問題を受けて国のエネルギー転換が必要と考える。上川町は地熱をもっと積極的に進めてもらいたい。	地熱の推進については経済産業省の補助制度の問題などで現状は足踏み状態であるが、原子力発電の安全神話が崩れた今、経済産業省、環境省、関係する団体、道も含め積極的に手を打って参りたい。
自然エネルギー（太陽光発電等）の活用推進を政策として補助等の条例化あるいは制度化をしてもらいたい。	町としての助成策を研究する時間をいただき検討したい。
教育問題で、道教委の対応によって現場に混乱を招いていないか。	教育委員会としては学校それから家庭、地域が一体となって上川町の子供達を育てていかなければならない。機会あるごとに先生方と話しをし、子どもに悪影響を及ぼす形にならないように努めて参りたい。（答弁：教育長）
空き家、廃屋の対策について	東町の町内会がボランティア的に一業者と取り組んで環境整備したことを参考、教訓にしながら、町内会の協力や各企業に協力を願いまさに協働での町づくり、ふさわしい対応を考えていきたい。
層雲峡大手ホテルの滞納部分の入金状況について	非常に厳しい状況にあるが町に対しての納付にあたっての誠意、そういう姿勢はずっと一貫して持っている。

## 町長からの 行政報告

1月臨時会

し尿及び浄化槽汚泥の区域外処理並びに、上川医療センターの医師体制（1名増）について

当町の、し尿及び浄化槽汚泥の処理につきましては、衛生センターの廃止に伴い、当時、約1800kl以上あった「し尿等の区域外処理」の一部を協定に基づき1300klを限度として、大雪浄化組合に搬出し、残量を富良野広域連合に搬出することで、平成19年4月1日から区域外処理を実施してきたところであり、その後、当初の搬出量も、年々減少し、平成22年度には、全搬出量で1300klを下回る現状になる見込みであります。

つきましては、当初から全搬出量が1300klを下



（旭川衛生センター）

別町・当麻町、3町で運営されている大雪浄化組合へ加入の検討と、現施設での搬出量全量の処理の可能性について協議をすること

この様な不安定な状況を続けることは、回避しなければならぬものと判断し、新たな搬出先の調査検討をいたしました。

旭川市との間において、将来にわたって搬出量の全てを受け入れていただけることでの協定が整いましたので、平成23年4月以降、旭川市のし尿処理施設である旭川衛生センターへ搬出を行うことといた

なっておりまして、今年度、担当において協議を進めてまいりましたが、当町が加入することにより構成3町の負担が増えることと、現施設の老朽化に伴い、機器の延命を図るための受入量の問題等から、当町の現在の搬出量約1000kl以上の受入は困難であるとの結論に至ったところでありました。

このに伴い、旭川市へ搬出することにより、現在の手数料14円が9円10銭となり、年間約620万円程度の経費削減が図られる見込みとなるものであります。

当町の医療サービスの提供につきましては、医療法人北海道家庭医療学センターから、医師の出向契約に基づき、現在3名の医師の派遣をお願いしているところでございます。また、一昨年10月には、上川医療センター及び老人保健施設つつじ苑への体制転換を実施し、地域に根ざした家庭医療の診療方針が徐々に町民の間に定着してきております。

しかしながら、当医療センターにおきましては、外来待ち時間に対する不満、地域保健活動との連携、24時間診療体制に伴う医師の負担増など、なお改善すべき諸課題を抱えているところでございます。

そのため、さらなる住民サービスの向上と医師の負担軽減などを目的に、来年度から医師の1名増が図られるよう北海道家庭医療学センターへ要請をいたしました。

この度、北海道家庭医療学センターのご配慮を賜り、来年度から後期研修を終えた経験のある医師の1名増の内定をいただいたところでございます。

このことにより、平成23年4月からは、医師4名による診療体制を整備し、外来待ち時間の緩和、訪問診療の充実、地域保健活動との連携推進などの住民サービスの向上を図り、医療サービスの安定的かつ適正な提供に努めてまいりたいと存じます。

また、合わせて転換の際の課題でもありません経営の健全化を推し進めて、持続可能な事業運営に努めてまいりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

# 委員会等の動き

## 産業福祉

平成22年12月6日 所管事務調査  
 出産祝い金の見直しについて

出産祝い金については、平成7年度から第3子以降の新生児を出産した者に出産祝い金として10万円を支給している。

平成9年度からは改正し、出産時、小学校入学時、中学校入学時にそれぞれ10万円を支給してきた。

出産祝い金については、上川町行政改革大綱推進計画において見直し対象事業とされている。また、平成22年度から国において「子ども手当」が創設されたことから出産祝い金の額の見直しを行い、第3子以降の

新生児の出産時に出産祝い金として10万円を支給することとし、小学校入学時、中学校入学時の支給は廃止することとした。ただし、既に支給権のある子どもについても今後とも支給をする。

なお、その財源については、妊婦健診の充実、ワクチン予防接種助成の拡充など保健福祉事業の充実に振り向けていくとの説明を受けた。

委員からは、他町では第1子からお祝いをしているところがある、検討できないかとの意見が出された。福祉灯油助成事業の見直しについて

福祉灯油助成事業については、灯油価格の高騰が低所得世帯において、冬期間の家計を圧迫する状況になつてきていることから、その

経済的負担を軽減するため、灯油購入にかかる費用の一部を助成することにより、生活の安定と福祉の増進を図ることを目的に創設したものであり、今年度が3年目である。

当面は見直す必要はないと判断しているとの説明を受けた。

子宮頸がん等ワクチン接種事業について

国は子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの定期接種化に向け、予防接種を促進するための基金を都道府県に設置するための補正予算措置をとり、平成22年度、23年度において対象年齢層にひとりの接種を提供することとなった。

基金は都道府県に設置し、市町村の事業に対し助成するもので、負担割合は事業費の9割の $\frac{1}{2}$ づつを国と市町村が負担し、残り1割を接種者負担とすることができることとしている。

との説明を受けた。

### 上川町中心市街地活性化計画調査特別委員会

平成23年1月20日 調査中心市街地活性化基本計画について

(1)土地区画整理事業の進捗状況について

### 議会運営委員会

平成23年1月21日  
 平成23年第1回上川町議会臨時会（臨時1）の運営について

平成23年2月28日

平成23年第2回町議会定例会（定例1）の運営について

平成23年3月11日  
 平成23年第2回町議会定例会（定例1）の15日以降の運営について

### 全員協議会

平成23年2月28日  
 旭ヶ丘地区活性化計画について

層雲峡・大雪山写真ミュージアムについて



議会広報は、町ホームページでもご覧いただけます。

## 議会・議会広報

に対して、みなさまのご意見をお寄せください。

役場議会事務局へ  
 電話 2 - 1211 (内線301)

## 意見書を提出しました

住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める意見書

提出者 久米 得正議員 他2人

子ども・子育て新システムに関する意見書

提出者 安部 逸雄議員 他1人

T P P交渉参加を行わないよう求める意見書

提出者 川上 隆士議員 他3人

地域医療存続のための医師確保に関する意見書

提出者 菅家 幸雄議員 他4人

### 《提出先》

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、厚生労働大臣、財務大臣、文部科学大臣、内閣府特命担当大臣（少子化対策）外務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣



(医療センター待合室の様子)

%、町55%の負担とし、接種者負担は徴収しないこととする。なお、道においては町負担分（接種者負担上乗せ分を除く）45%の $\frac{1}{2}$ を助成の見込みである。

実施時期については2月からの接種開始を予定し、予算措置をするとの説明を受けた。

平成23年度医師体制（1名増）について

現在3名の医師体制で診療を行っているが、平成23年度から1名増員をした。その理由として、1点目に住民サービスの向上で

あり外来診療等含めて待ち時間の解消、さらに北海道家庭医療学センターの医療方針として訪問診療の充実と保健師との連携を深め予防活動に力を入れたい。

2点目として、救急告示の指定を受け24時間体制の中での診療と合わせて各種健康診断、予防接種等々業務の増加が想定されることから医師の負担軽減を目的に1名増を図りたい。町の考え方を家庭医療学センターに要請しており近々理事会において決定されるとの説明を受けた。

平成23年度電子カルテシステム導入について

電子データ活用により院内の既存機器及びシステムとの連携を行いながら患者サービスの向上と効率的な外来事務を含めた診療所経営を図るとの説明を受けた。なお、供用開始時期については、平成23年10月を予定している。

外来診療予約制について

平成23年1月から外来待

# 議会傍聴アンケート

第2回町議会(定例1)の開催にあたり、初の取り組みとして町民が気軽に議会傍聴できるようにチラシを作成し新聞折込みしたところ大いに反響があり、25名の町民の方々が傍されました。そこで、抽出した7名にアンケートにご協力をいただきましたのでその結果をご報告いたします。なお、寄せられたご意見等には紙面にて回答する予定です。

対象者	傍聴は何回目か	傍聴のきっかけについて	感想( 良い点 悪い点 気のついた点 )	再度傍聴するか( する - 理由、 しない - 理由 )	意見等
64歳男性	7回目	チラシ、事務局に誘われて	議員の皆様が真剣に質問し、町長や役場の方が一生懸命に答える様子が良かった。 ・今までに白寿大学の方が傍聴に来られていたが、今回は一般町民の方が多数傍聴に来られた点良かった。 予算審議は資料がなかったので、やりとりの内容がわかりづらかった。ぜひ一般町民が理解できる様に資料の提供を願いたい。 最低限のマナーと、質問の方法や答える回数等を議会が開催される前に説明がほしかった。	- 住民として最低限の義務と考えている。	・議員さんはもう少し勉強が必要と思った。 ・質問の内容以外の答弁は時間の無駄と思うので的確に答えてほしい。 ・自分の町のための議会、一般質問だけでなく他の議案についても傍聴してはどうか。
68歳男性	5回目	気になる議案があり傍聴したかったから	町長の答弁がわかりやすかったが、議員の質問が現時点での内容に沿ったものか若干ずれているような気がしたが、広報に出る広がるのは良いと思われる。 質問に対する答弁でわかりにくかった例もあった。	- どの議員がどんな理由で何を質問するか興味があり、町の重要な事案がどんな経緯で決められているかもう一步進めて聞きたい。	・傍聴する人が多かったような気がするが、チラシが効いたような気がする。
72歳男性	4回目	チラシ	若い人が出て来たなと思えたこと。 ベテランもそれなりに大事と思うが沈滞感も否めない。 議員がサラリーマン化していないか？	- 議会とはこんなものかどうか確かめたい。	・議員の政務調査費を明らかにする情報公開が積極的になされるべきでないか、議員諸公の考えを聞きたい。
42歳男性	1回目	チラシ	町民を代表している議会議員の活発な意見が出ていたと思う。 議案第21号～29号(各会計予算)までの資料が欲しかった。	- 多くの方が傍聴することで議会が活発になると思う。時間が合えば傍聴したい。	・特になし
77歳女性	4回目	チラシ、議員から誘われて	一般質問で音声が鮮明で良く質問内容が分った人も居た。 音声がこもって分らない面もあった。 斬新なアイデア(活性化計画)はなかった。 ・傍聴席のイスが足りなかったと思われる。また傍聴席を立て札等で標示してはどうか。	- 興味関心のある内容が取りあげられた時、選挙に役立ってたい等から。	・チラシの配付はできれば毎回してほしい。
69歳女性	3回目	チラシ、議員から誘われて	現在どんな事が議会にかけられているかと思い出席したが、子育ての事で良かったと思う。 質問者や答弁者は、はっきりとした言葉で言ってほしい。 本当は休んだ方の質問の返答が聞きたかった。	- 周辺地区にいたら町の様子など分からないので次の議会も出席したい。	・はっきりとした言葉や内容で答弁をして頂きたい。 ・もっと町が良くなるようにがんばってほしいと思う。
71歳女性	2回目	白寿大学	議員さんの質問もまとめられているので分かりやすい。 旭ヶ丘にこられるオーナーさんの面倒を全部見るのか。	- 午後からの予算等聞けず残念。	・聞く方も謹聴、聞きのがさない様に耳を傾けた。